

Miyazawa Kenji

×

Kawamoto Rokuseki

【参考】

『宮沢賢治と「アザリア」の友たち』

『郷土出身文学者シリーズ4 河本緑石』

大正5年3月、緑石は盛岡高等農林学校へ入学します。入学当初は学校が発行する『校友会々報』に俳句を投稿しており、学生の間では一目置かれる存在でした。しかしそれでは物足りなくなり、緑石と同校で出会った宮沢賢治ら4人が中心となり、大正6年に文芸誌『アザリア』第1号を発行しました。『アザリア』は大正7年の第6号で終刊しましたが、わずか10か月の間に二人の創作センスや技術は大きく磨かれ、学校を卒業後も作品の交換や手紙で交友を深めるなど、互いに影響を与え続けました。緑石は昭和8年、鳥取県立農学校の水泳訓練中に溺れた同僚を助け亡くなります。この出来事は、賢治の代表作『銀河鉄道の夜』でカムパネルラが友達を助けに川に飛び込み亡くなる場面と重なることから、そのモデルが緑石だと考える研究者もいます。

みや
宮

ざわ
沢

けん
賢

じ
治

と

かわ
河

もと
本

ろく
緑

せき
石



かわ もと ろく せき
河本緑石

俳人 明治30(1897)年～昭和8(1933)年



東伯郡社村大字福光(倉吉市福光)に生まれる。本名義行。

従兄の影響で句作を始める。盛岡高等農林学校に入学後、宮沢賢治(1896年～1933年)に出会う。ともに同人誌『アザリア』を発行し、文学の研鑽に努めた。

36歳という短い生涯ではあったが、画家中井金三(1883年～1969年)を中心とした文化団体「砂丘社」にも参加するなど、率先して芸術および文学の振興に心血を注いだ。

※俳号は「りよくせき」とも読むが、緑石本人が「ろくせき」と記した手帳が発見されていることから、ここでは俳号の読み方を「ろくせき」としている。

◆代表作『夢の破片』『大山』『大空(たいくう)放哉伝』

【肖像写真】個人蔵



みや ざわ けん じ
宮沢賢治

詩人・童話作家 明治29(1896)年～昭和8(1933)年

石川啄木(いしかわたくぼく)(1886年～1912年)に感化され、15歳で短歌の創作を始める。盛岡高等農林学校に首席で入学し、同人誌『アザリア』で活躍。卒業後は東京に半年ほど滞在した後に故郷へ戻り、農学校の教諭となる。この時最愛の妹を病気で亡くす経験をするも、『注文の多い料理店』を発表するなど創作活動が最も充実した時代となった。

大正15年(1926年)に教職を辞し、病床のなかでも意欲的に執筆を続けた。

◆代表作『銀河鉄道の夜』『注文の多い料理店』『セロ弾きのゴーシュ』

【肖像出典】「写真集 宮沢賢治の世界」 【参考】『東北近代文学事典』

Yosano Tekkan, Akiko

×

Trako Seihaku

【参考】

『伊良子清白研究』

『現代詩手帖 2004.8』

『郷土出身文学者シリーズ 5 伊良子清白』

明治33年1月、清白は関西青年文士の大会で初めて晶子に出会い、翌2月に上京した際、与謝野鉄幹とも対面しました。この年清白は京都医学校を卒業し、日本赤十字社病院の医者として新たなスタートを切りましたが、仕事の合間に与謝野家を訪れ、文芸雑誌『明星』を創刊するため編纂の手助けを行いました。『明星』創刊後も、「巖間の白百合」（河井醉茗編『詩美幽韻』に掲載）など清白の作った詩が誌内で高く評価されています。

また、清白は鉄幹の2歳下の弟である与謝野修とも交流がありました。二人がいつごろ知り合ったのかは不明ですが、修は「与謝野秋香」の名で清白のために「呈伊良子暉造」という漢詩を作り、『青年文（第2巻第3号）』に投じています。



よ さ の てっ かん あき こ
与謝野鉄幹・晶子と

い ら こ せい はく
伊良子清白

い ら こ せい はく 伊良子清白



詩人 明治10(1877)年～昭和21(1946)年

八上郡曳田村(鳥取市河原町曳田)に生まれる。
本名暉造(てるぞう)。

京都府立医学校を卒業後より生涯医療に専念したが、明治27年(1894年)頃から詩作を始め、雑誌『文庫』を中心に活躍。河井醉茗(かわい すいめい)(1874年～1965年)、横瀬夜雨(よこせ やう)(1878年～1934年)と並び“文庫の三羽鳥”と称された。

明治39年(1906年)に『孔雀船(くじゃくふね)』を出版後、詩作を絶つ。医師としての仕事のため全国各地を転々としたことから、“漂泊の詩人”とも呼ばれる。

◆代表作『孔雀船』

【肖像写真】鳥取県立図書館蔵



よ さ の てっ かん 与謝野鉄幹

歌人 明治6(1873)年～昭和10(1935)年

京都府岡崎(京都市)に生まれる。本名寛(ひろし)。幼少時代は西日本各地を転々とする生活を送る。

明治32年(1899年)に東京新詩社を設立し、翌年機関誌『明星』を創刊。一人一人の個性の尊重と才能を重視し、新しい文学集団のあり方を打ち出した。

◆代表作『明星』『東西南北』『鉄幹子』

【肖像出典】「現代日本詩人全集」序巻 【参考】『京都近代文学事典』



よ さ の あき こ 与謝野晶子

歌人・詩人 明治11(1878)年～昭和17(1942)年

大阪府に生まれる。本名しょう、旧姓鳳(ほう)。

明治33年(1900年)創刊の『明星』に作品を発表する中、鉄幹と出会う。翌年処女詩集『みだれ髪』を刊行、奔放自由に人間讃歌を歌いあげたことが注目を集め、ロマン主義の詩歌スタイルを確立した。

◆代表作『みだれ髪』『新訳源氏物語』

【肖像出典】「現代日本詩人全集」序巻 【参考】『京都近代文学事典』